

もっと笑顔で、暮らせる明日へ。

aito

7

Jul 2020
No.304



ふれあい情報誌



エンジョイライフ

新余目支所管内 坂本 正市さん(57)



音楽の楽しさを音色に乗せて

中学生の頃から吹奏楽の経験があった私は、18年前に本格的にクラリネットを始めました。同級生と結成した余目吹奏楽愛好会に所属し、庄内町の響ホールや福祉施設でクラシックから演歌など様々なジャンルの演奏会を年1回行っています。私はクラリネットの他、コンサートマスターとして指揮者をすることも多いです。

私たちの演奏を聞きながら涙を流し感動してもらったり、次回へのリクエストを頂いたときは音楽をしていて楽しいと思える瞬間です。「聞いて楽しく、吹いて楽しい」をモットーに、これからも仲間と楽しみながら演奏を続けていきたいです。



怪我や病気にならず元気に大きく育ってね！

温海支所管内 佐藤 乃愛さん(10)・琥歩さん(8)
莉愛ちゃん(6)・風愛ちゃん(4)・想愛ちゃん(2)

弟妹の面倒見が良い乃愛さんは体育の授業が好きで、今はなわとびに夢中です。

みんなを笑わせてくれる琥歩さんは、頬またお使いもお姉ちゃんと2人で楽々とこなします。

莉愛ちゃんは体を動かすことが大好きで、どんな場所でも転倒を披露できます。

ちょっと天然なところがある風愛ちゃんは、お姉ちゃんと一緒に食器を洗って家事を手伝えます。

想愛ちゃんは歌って踊ることが大好きで、バナナなどのフルーツが大好物です。



あいと
キッズ

JA Shonai Tagawa Community

FAMILY FARM

ファミリーファーム

立川支所管内 西村 俊さん(63)・大和さん(14)
遥菜さん(12)・武蔵さん(7)



大地を耕して45年、
家業の農業を次世代へ

(俊さん) 高校卒業後に専業農家として就農し、45年が経ちました。現在は稲作を主軸に、大豆や養豚、赤かぶ、花き、ほうれん草などを栽培しています。農業の利点は自分が頑張った分だけの見返りがあり、したいことを好きなように実現できるところだと思っています。今後も、農業で家族を支えていくという意識を常に持って取り組んでいきます。

水稻栽培は、家族や親戚などと種まきから田植えまでの一連の作業を協力して行っています。特に孫の大和は幼稚園の頃から手伝ってきたので、どんな作業でも任せられる心強い味方になっています。今では農業をしたいと言ってくれるので、経営や栽培技術を教えていきながら、次世代へ農業を繋げていきたいです。

庄農生トライ

SHONOSEI TRY

学校で学んだことを活かし、食品加工の道へ

食料生産科3年 佐藤 かんなさん 鶴岡市



私は庄内農業高等学校に入学してから、稲作をはじめ野菜や果樹など農業について学んできました。その中でも2年生で選択した食品加工の授業では、庄農名物「ニューピース」や「庄農うどん」などを作りました。生産から商品になるまでとても大変なことだと実際に肌で感じ、その時に「食品加工の仕事を将来やってみたい」という気持ちが芽生えました。まだ将来については悩んでいますが、この学校で学んだことを活かし、人の役に立てる仕事に就きたいと思っています。そのため、日々を大切に、進路へ向けて精一杯頑張っていきます。



人と自然、食べ物と生命、消費者と生産者。みんなで繋がっている。



特集 第25回通常総代会

J A庄内たがわは6月19日、新余目支所で第25回通常総代会を開催致しました。新型コロナウイルスの影響から主に書面決議での開催とし、実出席と書面出席の計532名の総代により、上程した11議案が原案通り承認されました。

また、任期満了に伴う役員改選では、理事24人、監事6人を選任し、総代会後の臨時理事・監事会で、代表理事組合長に太田政士氏、代表理事専務に菅原勝氏、常務理事に齋藤学氏、林繁氏を新任し、代表監事に鈴木善一氏を新任、常勤監事に佐藤勝仁氏を再任致しました。

2019年度は、第8次中期経営計画の2年目に当たり、自己改革の実践を支える持続可能なJA経営基盤の確立・強化を実現に努めたほか、農業者の所得増大と農業生産の拡大のため、販売高40億円に向けた取り組みを進め、収支改善への業務の効率化や施設再編・合理化などに取り組んで参りました。

2020年度は、第8次中期経営計画及び第7次地域営農振興計画の最終年度となり、農業の所得増大と農業生産の拡大、地域の活性化への更なる実践に向け、役職員一丸となり取り組むことを確認致しました。

104

10

染拡大に伴う緊急事態宣言の影響で花卉農家や肉牛家など販売価格の低迷が深った。JAのこれまでの取組

支援策はどのよきな影響を及ぼすのか。

と併せ 政府に米在庫対策
強く要請する必要があると

和元年度の事業利益の減少
因、事業外損益の内容をお

井組合長の在任15年間を
のように総括しているか。
た、次の役員に対する期待
考え方についてお聞きした

寶

質 新型コロナウイルスの影響で米も売れないといふ状況であり、来年あたりの生産者概算金は1万2千円

か1万一千円になると聞いた。
JAはどうに考へてこう
のか。

質

質 黒井組合長の在任期間を通じて、どこよりも安価な生産資材を供給し、組合員全員の米をどこよりも高

く販売するという言葉が欲しかった。また、生産資材の大口対策を進めていたが、組合員には全て同価格で平等に供給して頂きたい。

賃 わらす、前期と同様に
剰余金処分案に出資配当がな

また、他の総会等では、席

新型コロナウイルスの

影響で米も売れないと
いう状況であり、来年あたり
の生産者概算金は1万2千円
が1万1千円になると聞いた。

アセビのものに帰属しないのか。

対策の要請活動として、6月23日に山形県入りする農林水産省のキャラバン隊に非主食

今年は非常に厳しい状況の中、事業利益365万円という結果となりました。信用事業のマイナス金利、共済事業においても計画・前年値に届かなかつた影響があり、信用・共済事業において合計約1億8千万円位の事業総利益が減

米の在庫につきましては、現状のままで推移しますと、米価の下落が懸念されるため主食用から非主食用へのくらい転換できるか、国に指針を早急に出して頂くよう、強く要望して参ります。

米の在庫につきましては、現状のままで推移しますと、米価の下落が懸念されるため主食用から非主食用へのく

少したという内容であります。在任期間の総括について、組合長として就任した当初は、国がTPPへの参加方針を突然示し、当時の官邸関係者へ庄内5農協の組合長と色々な進言をさせて頂きました。その後、現政権へ変わりましたが、現在はTPP11へ参加している状況であり、TPPとほぼ同内容となる日米貿易協定を締結するなど、国際取引につきましては、政治に翻弄されてしまうこともあります。しかし、JAとしては、理不尽な要求には断固たる姿勢で逆に立ち向かっていかなければなりません。



第25回通常総代会 役員のご紹介

第25回通常総代会終了後に開かれた臨時理事会・監事会において、4名の常勤理事をはじめとする新執行体制が決定致しました。【敬称略★は新役員（）内は集落名】



非常勤理事



代表監事

常勤監事（学識経験者）



監事

6名

代表監事

鈴木 善一 ★

★

鈴木 聰 ★
(鶴岡市・松根)



海藤 喜久男
(庄内町・下幅)



菅原 久雄氏
前理事

阿部 一志氏
前理事

五十嵐 善昭氏
前常務理事

宮崎 重美氏
前代表理事専務

黒井 徳夫氏
前代表理事組合長

長年お疲れ様でした

→退任される方々



斎藤 正志氏
前員外監事

阿部 健一氏
前監事

坂 清一氏
前代表監事

武田 富志氏
前理事

佐藤 弥一氏
前理事

非常勤理事



菅原
勝
★

代表理事専務



太田
政士
★

代表理事組合長



小林
馨
★

常務理事



斎藤
学
★

常務理事



大沼 恒司
(鶴岡市・表小路)

鈴木 茂
(庄内町・前田野目)

丸山 見聖
(鶴岡市・東荒川)

渡部 修
(鶴岡市・高寺)

小林 忠好
(鶴岡市・上野新田)

佐藤 昌幸 ★
(鶴岡市・一霞)



菊地 孝一 ★
(三川町・成田新田)

足田 勝幸
(鶴岡市・藤岡)

佐藤 浩幸
(鶴岡市・大半田)

佐藤 宣夫 ★
(鶴岡市・木野俣)

上林 淳
(鶴岡市・添川)

黒田 暢 ★
(三川町・横川)



非常勤理事

20名

ミニトマト・病害虫予防の徹底で良品出荷へ

ミニトマト部会は6月26日、羽黒地域のJA農業分析センターでミニトマトの目ぞろえ会を開いた。参加した部員約20人が出荷規格や集荷体制などを確認し、取引先への安定供給と良品出荷に向け士気を高めた。

J A園芸特産指導員がサンプルを示し、選別基準を説明。品質・形状・着色状態が良好で、実割れやスリ傷、ヘタが外れているものの混入を避けるよう部員らへ呼び掛けた。5月下旬の定植後から好天が続き生育は順調で、今後、脛芽の摘み取りを徹底し株内の通気性を保ち、病害虫発生の予防に努めていく。取引先である関東圏の生協や地元市場を中心に、11月中旬まで出荷していく予定だ。



山ぶどう・十分な着果数で豊作に期待高まる

朝日支所山ぶどう部会は6月29日、朝日地域で「月山ワイン」の原料となる醸造用ブドウの夏季管理講習会を開き、参加した部員約30人が新梢管理や病害虫防除について学んだ。全体的に十分な着果数を確保しており、今年産の豊作に期待が高まっている。

講師を務めた県庄内総合支庁農業技術普及課の指導員は、「シャインマスカット」は花穂の先端を3.5cm～4cmほど残して切り揃えることが重要だと説明し、作業を実践しながら指導した。今年産は5月下旬の好天により順調に生育が進み、開花始期は平年並みの同月6日となつた。今後は、8月上旬から始まる収穫に向け新梢先端の摘心と灌水の徹底で安定した着粒と肥大粒生産に努めていく。



トルコギキョウ・高品質出荷へ規格を確認

7月上旬から始まる出荷を前に、花き部会トルコギキョウ専門部は6月29日、庄内町で目ぞろえ会を開いた。参加した部員約30人は、高品質生産に向け、規格や開花輪の見分け方などを入念に確認した。

同専門部長によると、今年産の生育は順調に推移しており、昨年産に比べ2日早い出荷となっているという。圃場での枝・芽整理を徹底しながら、市場から求められる品質を維持していくよう部員らへ呼び掛けている。

今後も県庄内総合支庁農業技術普及課とJAが連携し、少量の灌水を基本に、品種に応じ灌水の量を加減しながら送風などでハウス内の湿度低下を推進し、病害虫の防除を指導していく。



ぶどう・高品質に向け徹底した房づくりが重要

ブドウの花穂が伸び切り開花始期に合わせ、ぶどう部会は6月8日、櫛引地域で房づくりの講習会を開いた。部員約30人が収穫時の房の形や大きさを整えるため、房の長さを切り揃える作業を学んだ。

講師を務めた県庄内総合支庁農業技術普及課の指導員は、「シャインマスカット」は花穂の先端を3.5cm～4cmほど残して切り揃えることが重要だと説明し、作業を実践しながら指導した。今年産は5月下旬の好天により順調に生育が進み、開花始期は平年並みの同月6日となつた。今後は、8月上旬から始まる収穫に向け新梢先端の摘心と灌水の徹底で安定した着粒と肥大粒生産に努めていく。



地域とJAを結ぶネットワーク 各地の話題を追って

JA NEWS

掲載記事の詳細はホームページに掲載しております



枝豆・梅雨時期の栽培管理をチェック

枝豆部会の部員らは6月17日～19日、管内の枝豆の圃場を巡回し、JA園芸特産指導員らと生育状況を確認しながら、梅雨時期に向けた栽培管理や病害虫対策のポイントを入念に学んだ。

同行した県庄内総合支庁農業技術普及課の担当職員からは、①早めの耕耘作業や圃場周辺の除草対策で病害虫が増殖しにくい環境整備の重要性、②梅雨時期のゲリラ豪雨に備え、排水対策による湿害予防、③計画的に中耕・培土・追肥をすることが呼び掛けられていた。今年産の生育は順調に推移しており、早生品種は6月下旬に開花を迎える、収穫のスタートは7月下旬頃になると見込まれている。



梨・摘果作業と新梢管理が大玉へのカギ

櫛引支所なし部会は6月10日、櫛引地域で梨の栽培講習会を開いた。参加した部員約20人が、大玉の和梨栽培に向けた摘果作業や新梢管理などを学んだ。

講師の県庄内総合支庁農業技術普及課の担当職員は「着果状況を把握し傷果を見定めて摘果することが重要であり、摘果作業と新梢管理を並行しながら果実への日当たりを良好にし肥大を促すように」と説明していた。1花当りの平均着果数は3.2果と平年並みで、十分な着果数を確保している。今年産の収穫は8月27日前後と予測されており、部会では収穫までに灌水管理と日光量を確保した明るい園地づくりに努めていく。



軟白ねぎ・新規部会員が定植講習

長ねぎ部会は6月3日、三川町で今年度より軟白ねぎを新規作付する部員を対象にした定植講習会を開き、土壤作りの方法や定植後の栽培管理を入念に学んだ。

この日は、軟白ねぎ生産者の圃場を会場に、主流である簡易移植器を使用した定植作業の一連の流れを確認。講師となったJA園芸特産指導員は、土壌の残肥量などを把握・分析してから適正量を施肥するなど定植前の土作りが重要であると説明した。今後、同JAは今回参加した部員を対象に、成長した軟白ねぎの倒伏防止に向けた支柱の設置や紐張りの講習会を予定しており、定植から収穫、出荷までをサポートしていく。



SEADS・効率的な農業経営学ぶ

鶴岡市や当JAをはじめとした産学官が支援する鶴岡市立農業経営者育成学校（SEADS）の研修生13人が6月25日、羽黒地域にある同JA集出荷加工施設とアスパラガスの圃場を視察し、物流構造や昨年度にJAが導入したアスパラガスの長期立莖栽培などを学んだ。

同栽培は春から秋までの収穫が可能で、春採りと比べ反収は600%増の1ヶ月を望める先進的手法だ。春採り終了後に立莖作業へ移行できるため、田植え時期と被らず稻作とアスパラガスの複合経営が可能となる。研修生らは講師となったJA園芸特産指導員が説明する将来の効率的な農業経営の実践に向け、熱心に耳を傾けていた。



「心の声」

そろそろ夏本番！
あなたの暑さ対策は？

夏バテ防止にタンパク質「豚肉（ハム・ソーセージ）と畑の野菜」の献立を考えます。暑さに負けない体力をキープし、好きなビールや甘酒もセットで夏を楽しめたらいいなあ。 E・Hさん【新余目】

“涼しい朝のうちに”を意識して夜はそこそこ早めに休む。日中は、可能な限り室内で無理をしない。冷たく冷やした酢を使った料理で夏バテ予防です。 Y・Hさん【新余目】

私の暑さ対策は「熱いお茶や熱いラーメン」などを食べることです。冷たい物ばかりとると体が冷えすぎてしまうので、温かい物をとって汗を出すようにしています。 K・Yさん【朝日】

私は夏野菜が大好きです。夏野菜を使った料理で食欲倍増です。暑さ対策は食べて飲んで体力をつけておくことかな。 H・Hさん【三川】

ズバリお肉を食べること！暑い中焼き肉をしてスタミナを蓄えて元気に過ごします。 M・Kさん【酒田市】

私の暑さ対策は、しっかり三食食べることです。きゅうりのなます、なすのなんべやき、ひやしとまと、夏野菜を思いっ切りガッツリ食べつくす。 S・Mさん【新潟県】

私の暑さ対策は、キンキンな缶ビールとスパイシーな料理で晩酌すること。そして麻雀材の寝具で、小さな保冷剤を抱っこして眠る。身体も心も暑さに負けないぞ。 C・Hさん【神奈川県】

8月号投稿のテーマ

「あなたが思う夏の風物詩は？」

【応募方法】 下記の①～③を郵便はがき・Eメールにご記入の上ご投稿ください。

①テーマの答え(掲載致します)
②住所・氏名・年齢・電話番号
③広報誌の感想、JAへの意見・要望など

【あて先】 JA庄内たがわ農業情報係

〒999-7611 鶴岡市上藤島字備中下3-1
E-mail kouhou@ja-shonai.or.jp

【しめきり】 令和2年7月31日㈮ 当日消印有効
※投稿頂いた方の個人情報は、目的以外には使用いたしません。

今月のプレゼント



ソレイユルバン
ピアンコフリッザンテ
2名様

庄内たがわaito
Jul 2020
No.304

発行／庄内たがわ農業協同組合 〒999-7611
山形県鶴岡市上藤島字備中下3-1 TEL.0235-64-3000
電子メール tagawa@ja-shonai.or.jp
印刷／庄内農村工業農業協同組合連合会



ホームページ

Twitter

Instagram

いからし るか
五十嵐 瑞華さん(20)

三川支所管内

休日は家で映画を見てゆっくり過ごすことが多いのですが、食べることも大好きなので、毎日のごはんを楽しみにしています。これからは大学の頃にやっていたダンスにまた挑戦してみたいです。

